

金澤古蹟志卷廿六

城西宮腰口

○安江町

此の町は尾山八町の一町にて、昔佐久間盛政金澤城之時建てたる町名也。そのかみ金澤草創の頃は、袋町邊より安江町・安江木町へかけ、上安江村の村落ありしを、村家をば市外へ追出し、村跡をば町地となしたり。故に安江町と稱すといへり。按ずるに、元和元年九月利常卿の印書に、石川郡袋島村永不作之内、先年利長御在判にて新開被仰付、年貢米の事、當年以來毎年九拾俵宛可納所之旨申上通開届畢云々。と載せられ、宛名袋島村八兵衛・安江町市兵衛・石浦町又右衛門・こぶ村加兵衛とあり。元和年中までも、安江町・石浦町の兩町は、尙いにしへよりの農民僅に残り居たりし事知られけり。安江町・石浦町兩町共そのかみ村落の跡なりし故也。

○上安江村址

鍛冶町八幡由來記に云ふ。當社八幡は、安江庄の氏神にて、昔安江次郎盛高の造立也。往古は今の下堤町の後。深美氏の邸地に鎮座あり。其頃は上安江の村落は安江町の地邊にあり。然るを金澤市中取廣げられしに依つて、社も村落も共に移轉命ぜられ、村跡悉く町地となりたりと。或は云ふ。下安江村の移轉を命ぜられしは、慶長年中也といへり。按ずるに、三壺記に、元和年中に淺野川下安江と云ふ處まで堀川を通し、船の通路をなさしむとあり。元和以前既に村落をば今の地へ移轉せし事いぢるし。安江の邑傳に、昔は安江上・下兩村共に大村にて、上安江村は村高千三百石餘なりしかど、村地悉く町地と成り、村落は轉地を命ぜられ、今は田島の地所甚だ些少に成り、村の戸數も纔かになりたり。下安江村は殊に村地廣く、田島多かりしゆゑ、村落の移轉を命ぜられし後とても、今以て田島の地所多しといへり。

○安江庄

石浦神社に傳來せる寛永八年の氏子地圖に、安江町・安江